

# 自転車はどちらのカテゴリーに属するか——東西比較から

疋田 智

プロフィール  
1966年宮崎県生まれ。TBSテレビ情報制作局プロデューサー。自ら「自転車ツーキニスト」を名乗り、自転車運動学等の推進活動をおこなう。  
おもな著書に、『だって、自転車しかないじゃない』（2013年）、「自転車生活の愉しみ」（2007年。以上、朝日新聞出版）、「自転車ツーキニスト」（光文社、2003年）など多数。

ドイツやオランダなど、欧州諸国で自転車の有り様を見ると、大抵の日本人は驚く。「こんなにたくさん自転車が！」「お婆さんなのに速いなあ」あるいは「自転車がデカイ顔してるなあ（クルマが道を譲ってるよ！）」と。

このところのエコ、健康（医療費削減）などの潮流もあって、欧州では自転車が本当によく使われるようになった。

遅ればせながら日本でも「自転車ブーム」などと言われつつあるが、なんの日本の「ブーム」など欧州の現状にはるかにおよばない。

つい最近、環境サミットが開かれたコペンハーゲンなどでも、本当に街中、至る所が自転車だらけ。自転車なしには市民生活が成り立たないのだ。

意外なことに、彼らは決して丁寧に運転しているわけじゃない。日本人の目から見ると、むしろ「暴走自転車」に見えるくらいだ。何しろスピードが速い。だが、自転車はある程度のスピードを得て「クルマの代替」にならなければ、エコとしての意味はないともいえる。自転車は空気清浄機ではないのだから。

それに、よく見ていると一見、暴走風に見えるが彼ら必ず守る鉄則がふたつある。ひとつは右側通行（つまりクルマと同じ方向）を厳守する

ことで、もうひとつは、決して歩道を走らないことだ。つまり、自転車は車両カテゴリーであるという原則がきちんと生きているわけだ。

ここが日本と違う。彼我の差を一言でいうなら、自転車を「車両」として認識しているか、あくまで「歩行者に毛の生えたもの」程度の認識か、という部分だろう。そもそも自転車が歩道を走ることが許されている国など日本しかないのだ。

そういう認識の中、残念なことだが、日本の自転車は現状に甘えずぎていると思う。歩道を左右デタラメに走り、信号無視も、夜間無灯火も当たり前。あたかも自転車にルールなどないがごとく、傍若無人に今日も日本中を走り回っている。

その結果、この日本こそが先進国で自転車事故数、ダントツのワーストワンを記録している、ということをご存じだろうか。

本来はエコで健康的（医療費削減に効果があり）、渋滞知らず、経済的、と、いいことばかりの自転車のはずなのに、こと日本では、それが真つ当に活かされているとは言いがたい。

インフラの不備もさることながら、日本人は「自転車＝歩行者カテゴリー」という認識を一度考え直した方がいい。

- 14 地球ミュージアム紀行  
島の営みがつまった民俗資料館  
——沖繩・小浜島  
加賀谷 真梨
- 16 多文化をあきなう  
バナナの紙が仕事をつくる  
津田 久美子
- 18 フィールドで考える  
魔女の結婚式  
河西 瑛里子
- 20 人間学のキーワード  
ジェンダー  
宇田川 妙子
- 21 追悼  
佐々木高明 元館長を偲ぶ  
須藤 健一
- 22 制服の世界、世界の制服  
修行としての僧衣  
平井 京之介
- 24 次号予告・編集後記

- 1 エッセイ 千字文  
自転車はどちらのカテゴリーに属するか  
——東西比較から  
疋田 智
- 2 特集  
共生の雨林 アマゾン
- 3 生き物と人とのあらたな関係を求めて  
——世界最大の森アマゾンの魅力 池谷 和信
- 4 アマゾンの猿を追って 伊沢 紘生
- 6 姿を消した魚ピラルク 大橋 麻里子
- 7 コンゴウインコとオウギワシ  
——野鳥を飼い、羽を利用する 山口 吉彦
- 9 カメの卵狩り 齋藤 晃
- 10 似たモノさがし  
羽根飾り  
菅瀬 晶子
- 12 みんなく Information